

の非難を浴びつつ、なお此草刈が以然と続けられている由因は、案外こんなところにあるのかもしれない。

そして当日高々と万国旗がはためき、二千坪に垂とする運動場の中央は、白線が目を射るように円を描き、紅白の布が斜めに巻かれた入場門、退場門が晴々と立ち、立派な運動会場が出来上る。幼稚園母の会のバザーは大学生の大きな坊やと幼稚園の小さいお客様で大繁盛する、プログラムは順を追って次々に種目が進んでゆく。中でも毎年人気を呼ぶのは学生と団児のお母様がたとの共同競技である。

この大学の付属というのは幼稚園だけであって、それだけに、学園祭の一つである合同運動会は、園児と学生との間に非常な近親感を覚える。園児が転べば大学生が早速助けに走る。学生が競技をするとき「お兄ちゃんしつかり」といつせいに可愛い声援がある。こうして書いてみると、大、幼稚園一つになっていかにも楽しい行事

であるが、やはりここにも矛盾あり、悩みあり、反省もある。

単独の幼稚園ならば、もう少し幼児向きの運動会を催すことが出来るものをと……。

朝九時から、午後四時までの運動会では幼児にとつて少し長過ぎると思う。もちろん学生に依頼してプログラムを組むとき、幼稚園の部は遅くも三時には全部種目を終了出来るようにしてはあるのだが、これが単独ですとなればこの五時間をもつと有意義に使えるであろう。時間が長ければ長いほど、おとなの心もゆるみ子どもはそのゆるみに便乗してこの時とばかり我儘の羽をのばして、不規則な行動が多くなる。

バザーの繁昌に反比して子どもこの日一日の生活様式は急変し、健康につながるはずの行事の目的は外れてしまう結果になる。だが運動会の記憶画や、合作の中に満四才の子どもたちまでが、みんな大学生の「パン食い競争」や、「自転車ゆっくり競争」をたくみに表現しているのを見て、

「私は大学のお兄ちゃんと、運動会をしたのだ」というよろこびが強く印象づけられ、大きくなるまで、うれしい思出として残されるに違いない。
このためにも私もはもつとも
つと反省し、去年よりは今年、今年よりは来年と一歩一歩前進するよう、合同運動会について研究をしたいと念じている。
(同朋大学付属幼稚園)

秋季運動会の回顧

森 下 正 作

- 一、運動会の目的
幼稚園教育の一環として体育の方面より日常保育訓練の総練習とすること。
 - 二、父兄と園児と教師と三者一体となり楽しき一日のレクリエーションとすること。
 - 三、幼稚園と家庭との連絡を緊密にし幼児教育の振興に寄与せしむること。
 - 二、運動の種目
個人的なもの、団体的なもの、遊技、競技などとし、なるべく園児と父兄と共同的なものを選んだ。
 - 三、運動会実施の心得
1. 楽しく、元気に、きまりよくの標語をモットーとして終始整然とおこなうこと。
 2. 競技においては各個人の能力をじゅうぶんに発揮させ過勞に陥らぬよう注意すること。
 3. 審判については勝敗にのみこだわらず一等等と単にことばの上で賞賛し、時には体力に応じて努力した幼児には最後に褒めてやる一つも一着と呼んで褒めてやるようにし優越感や劣等感を持たせぬよう注意すること。
 4. 賞品は運動会全部終了後全員平等に賞品を授与して、少しも

差別なく互に楽しく閉会す。
 四、運動会に対する所感
 1. P.T.Aが終始一貫共同一致して諸準備から当日の進行あとかたづけに至るまでまったく自分の仕事の如く全責任をもつて協力せられ、さいわい好天氣に恵まれ盛大裡に終了出来たことは喜びにたえない。

2. 父兄と園児の共同遊競技についてはほとんど全員参加して親子互に手をつなぎ喜々としてなごやかな風景が転回されたことは、まことに幼稚園教育と家庭教育とが混然一体となりまことにほほえましい極みであった。
 (太田幼稚園長)

運動会をふりかえつて

黒川 鈴子

みのりの秋とともに、子どもたちの活動も一しほ旺盛になり「先生、早よう幼稚園の庭は狭いし、学校の運動場で走りっこしようなあー」「あしたも又しようね」「きつとよ、きつとよ」と運動会をひかえて、競技に、リズム遊戲にと、拍車がかけられる。

性を、あますところなく發揮し、双の瞳を輝かす。思わず「○○ちゃんばかりっこなの」と言い出しそうになるのを、「よくがんばって走ったね。よかつたね」と、汗で濡れた頭を撫ぜる。「うん」と、かぶりを振ったかと思うと、またスタートへと走り去っていく。

待望の運動会当日は、幼な子たちの、てるてる坊主への願いも空しく朝から兩空。そのことによつていっそう明日の運動会の期待も大きかった。翌日は願がかなって運動会日和。小学校の児童にまじって、白い運動帽・赤い鉢巻姿もかわいく、次々と競技は展開されていく。

園児のP・C(親子)のフォーグ・ダンスに、和やかな雰囲気がいっぱし流れる。親子手を取りあい、楽しそうに互に笑みを交わして、ルビ・ルー(イギリス)桑の中(アメリカ)のメロデーとともに、足どりも軽ろやかに踊るようすに、学校の観覧席の父兄たちからは、割れるばかりの拍手が起った。いつもあそびの仲間へ入れなかつたR児S児K児も、いつのほどにか、競争への興味にひかれ、歓声をあげて、あそびの中へ入っている。このように子どもに要求に基づいて、自然な型であそびの仲間入りができたことは、大きな収穫であつたと思う。

これらの演技を通して、どの子ども、どの子も心身ともに、生気に満ちあふれ、皆で、楽しい僕たち私たちの運動会をしようといつた、力強い、また、協力的な態度で運動会にのぞんだことを喜ばしく思う。

運動会の数日後、K児が「先生、ゆうべな、お父さんと、お母さんと、お兄さんと、僕と、みーんなでフォーグダンスしたよ、僕が先生になつて」と、いつになく晴れぱれた顔で私に話しかける。これだ！運動会といった場だけに限らず、家中がメロデーを口ずさみ、小さい先生を中心に、こんなひとときが一年の間に何回か、自然なかたちで生まれてくれることを。園生活にだけとどまらず、家庭生活の中にリズムが流れ、一家相和した雰囲気がつまみでも、かもし出されることを願っている。

こういうような健康的な明るさ、協力的な態度は、運動会のみにとどまらず、幼児期の生活のあらゆる場で生かされなければならぬものである。

また、運動会を契機として、幼児の心身の調和的発達を促すことから、活動の旺盛なこの時期を捉